

日本工学院専門学校	開講年度	2019年度	科目名	テクニカル4	
<b>科目基礎情報</b>					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース（ドラム）	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	各自スティック持参 参考資料、音源は授業内で提示します。				
<b>担当教員情報</b>					
担当教員	下田武男		実務経験の有無・職種	有・プロミュージシャン	
<b>学習目的</b>					
一年次に習得した知識・実力をベースにしつつ、改めてドラムを演奏する上での基本的なグリップとフォーム、フットペダルの踏み方と足の使い方の再考・見直しからスタートし、基礎ルーディメンツの応用と実践、基本的なリズムワークをレクチャーして行くことで、ドラマーとしての総合的なテクニック（スティック&ペダルワーク）の向上を計ります。					
<b>到達目標</b>					
多種多様なあらゆるジャンルの音楽スタイルを学び、楽しみながらドラムをプレイすることでの自己表現（タイム&タッチ&トーンを意識しつつ）が出来る様に学生を育成、指導して行きます。音楽は歌う人と音を奏でる人同志の合奏であるという意識を持ち、ただテクニックに頼るのではなく、ドラムを通して音楽の中でのコミュニケーション（会話）能力を高めていく授業を目指します。					
<b>教育方法等</b>					
授業概要	この授業は個人マンツーマンの形ではなくグルーブレッスンの形態で行います。学生同士お互いの得意;不得意、また各々のキャラクターと魅力的な部分をお互いにリスベクト・理解し合う事の大切さ、それをどのように学生に伝えていくかを意識しながら授業を進めます。授業を通して、単にテクニック面だけでなく、音楽に真摯に向き合い、音楽を生かすプレイ&アプローチの出来るミュージシャンの育成を目指します。				
注意点	この授業では学生間または講師と学生のコミュニケーションを重視します。リハーサル・本番など実際の現場の観点から、授業スタジオ内の私語などには丁寧に注意・説明し対応します。単に授業に出席するのではなく、実現場を前提としたマナー、ミュージシャンシップを意識する。各学生とも卒業後に実現場、実社会で起こり展開して行く様々な事々に、自分なりのヴィジョンを持ちながら対処し進めて行けるように指導・応援して行きます。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する			
<b>授業計画（1回～15回）</b>					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	ルーディメンツ（1）	ダブルストローク・ロール系：フレージング、リズムワークへの応用			
2回	ルーディメンツ（2）	シングル&ダブルバラディドル系：フレージング、リズムワークへの応用			
3回	ルーディメンツ（3）	フラム系：フレージング、リズムワークへの応用			
4回	ルーディメンツ（4）	ラフ&ドラッグ系：フレージング、リズムワークへの応用			
5回	グルーヴ（1）	ロック、ポップス系フィール			
6回	グルーヴ（2）	ジャズ、スウィング系フィール			
7回	グルーヴ（3）	サンバ、ラテン系フィール			
8回	ツーバドラム（1）	右足&左足のペダルワークのバランス、トレーニングの実践			
9回	ツーバドラム（2）	ツーバス、(ツインペダル) 手足のコンビネーション：フレージング編			
10回	ツーバドラム（3）	ツーバス、(ツインペダル) 手足のコンビネーション：リズムワーク編			
11回	ドラマー研究・国内編	国内のドラマー、アーティストの名演&名フレーズの検証、レクチャー			
12回	ドラマー研究・海外編	海外のドラマー、アーティストの名演&名フレーズの検証、レクチャー			
13回	オリジナルドラミング	各学生、各自自分の魅力（アーティスト性）を意識、表現することの大事性			
14回	デモ演奏・発表	楽曲に合わせてのデモ演奏（オリジナル、コピー曲どちらでの可）			
15回	まとめ	2年次全体のまとめ			